

2023 年 12 月 21 日
原子力土木委員会資料

リスクコミュニケーション小委員会(第 2 期) 活動報告

1. 設置背景と目的

2011 年三月に発生した東日本大震災以降、わが国にあってはリスクコミュニケーションの必要性がますます強く認識されるようになった。リスクコミュニケーションとは、あるリスクについて直接間接に関係する人々が、リスクの存在や形態、深刻さ、受け入れ可能性について情報や意見を交換する相互作用プロセスのことである。現在、防災、原子力、科学技術、環境問題、食品安全等のさまざまな分野でリスクコミュニケーションが必要とされ実際に導入されている。

いかにリスクマネジメントにつとめてもゼロリスクを実現することは不可能であり、残余のリスクを社会としてどう扱うかが検討されなければならない。いっぽう、リスクについての共通理解や合意形成をなすこと、またリスク低減のための行動変容を引き出すことは決して容易ではない。当該リスクの関係者の立場や状況、価値観によって、リスクとしてとらえられる内容や重みづけといった認識が異なってくるためである。

リスクコミュニケーション小委員会では、原子力発電のリスクとは何なのかを社会の視点であらためて考え、そのうえで、原子力発電に関するリスクコミュニケーションのあり方を検討してきた。引き続き、リスクコミュニケーションを行う際の本質的に重要な要素や論点を明らかにしながら、原子力発電の安全性についての共考と協働の向上に資することを目指す。

2. 活動予定期間

2023 年 7 月～2025 年 6 月末

3. 活動内容

本小委員会では、主に以下の活動を行う。

- ・リスクコミュニケーションに関する調査研究
- ・リスクコミュニケーション概念と手法の再検討

4. 委員構成

委員長：奈良由美子（放送大学）

幹事長：松村卓郎（セレス）

委員：荒川武久（東京電力）、桑垣玲子（電力中央研究所）、堀口逸子（慶応義塾大学）、
中村晋（日本大学）、平川秀幸（大阪大学）

常時参加者：蛭沢勝三（電力中央研究所）、小長井一男（国際斜面災害研究機構）、武田智吉（前田建設工業）

5. 活動概要

○第1回小委員会の開催

2023年8月24日に、第1回小委員会をリモートにて開催した。まず、参加者全員から簡単な自己紹介を行い、続いて、土木学会論文集への論文投稿、リスク・コミュニケーター育成講座、その他について、紹介・確認、意見交換を行った。

論文投稿については、土木学会からの査読意見が紹介され、対応について意見交換を行った。今後、著者の委員間で対応内容を検討し、修正した論文を学会へ提出することとした。

続いて、リスク・コミュニケーター育成講座（エネ庁事業、原子力安全技術センター主催、時期未定）の予告が紹介された。委員が同講座の講師を務める予定であり、講演内容に含まれる予定の本小委員会の成果が、既発表の内容であり問題ないことを確認した。

その他、今後の予定として、9月の原子力学会秋の大会にてリスク部会の調査結果を発表すること、次回以降の小委員会にて、原子力学会とのコラボ、インタビュー調査、枠組み暫定案の具体について検討していくことを確認した。次回小委員会は12月13日に開催する。

以上